

# 本の世界をひろげよう



子どもが本に親しむためのプロジェクト大作戦実行委員会

## index 目次

読み聞かせの扉をひらく

### 第1章 さあ、読み聞かせを始めましょう …………… 1

- 1 どうして読み聞かせをするの？
- 2 主役は本と子どもたちです！
- 3 読み聞かせをする前に、練習しましょう
- 4 学校でボランティア活動をする自覚
- 5 相談できる関係をつくりましょう
- 6 読み手と子どもたちとの楽しい時間の共有を目指して

### 第2章 読み聞かせのための絵本選び …………… 5

- 1 絵本を選ぶポイント
- 2 集団への読み聞かせに向く本

### 第3章 どのように読み聞かせをしていますか？ …………… 9

- 1 プログラム（何冊かの絵本を組み合わせる）
- 2 会場のつくり方
- 3 本を読む前は（導入の仕方）
- 4 本の持ち方、めくり方
- 5 表紙の見せ方
- 6 文のないページの扱い方
- 7 声の大きさ、読み方
- 8 終わり方

### 第4章 読み聞かせの輪をひろげよう …………… 15

- 1 学校での読み聞かせ
- 2 読み聞かせの仲間たちとネットワークをつくらう！
- 3 活動を円滑に進めていくために

協力していただいた皆さん・参考図書・文献  
あとがき

読み聞かせに向く絵本のリスト

## 読み聞かせの扉をひらく

ひとりでも多くの子どもたちに、絵本や物語の面白さを伝えたい。

本を読むことで知った、ワクワクする感動。智恵と勇気。

生きることの大切さ。

そうしたものを、親から子へ、

大人たちから次の世代の人たちに伝えたい。

そんな想いがひとつになって、この小冊子はできました。

学校や地域で、読み聞かせなどのボランティアとして活動してきた経験をもとに、NPO法人横浜市民アクトの呼びかけに応じて集まった30人のメンバーが、半年の間真剣な議論を重ねてつくったのが、この小冊子です。

「学校で読み聞かせ活動を始めたい」と思っている皆さんに。

「読み聞かせの基礎をきちんと学びたい」と思っている皆さんに。

「どんな本を選んでよいかわからず困った」と思っている皆さんに。

ここでは、本の選び方からグループ活動の基本まで、実際に役立つたくさんヒントを、同じ市民の立場や目線で、わかりやすく書くように努めました。

横浜の市民、NPO、図書館、行政のコラボレーションから生まれたこの小冊子が、子どもたちへの読み聞かせ活動を始めようとしているあなたにとって、素晴らしい本の世界への扉をひらく鍵となることを、私たちは祈っています。

2006年11月

子どもが本に親しむためのプロジェクト大作戦実行委員会  
冊子班一同

### 1 どうして読み聞かせをするの？

本がなくても子どもの体は育っていきます。でも、子どもの心はどうでしょうか。子どもの成長過程において、想像力や創造力を養うことは非常に大切なことです。一冊の本との出会いから様々なことを学び、心も成長することができます。本と子どもをつなげるひとつの手段が、読み聞かせなのです。

### 2 主役は本と子どもたちです！

読み聞かせは、読み手と聞き手である子どもたちが本を通して行う、生きたコミュニケーションです。CDから流れてくるプロが語るおはなしよりも、今、目の前で読んでくれている温かく心のこもったおはなしによって、子どもたちは心をゆさぶられます。そして、その子どもたちの姿に刺激され、読み手もまた楽しいおはなしの世界を共有することができるのです。

主役は、本と子どもたちです。演劇のような表現や、受けを狙う必要はありません。また、同じ本でも読む人によってふんい気が違います。読み方が下手だから…ということは気にせず、おはなしを子どもたちと一緒に楽しむ気持ちが大切です。

そのためには、どんな本を選ぶかということが重要です。子どもの心の奥に喜びを届けることができるような本を、時間をかけてじっくりと選びましょう。本を選ぶそのときから、



読み聞かせは始まっています。そして本を選んだら、さあやってみましょう。

### 3 読み聞かせをする前に、練習しましょう

選んだ本は、読み聞かせをする前に必ず声に出して読んでみます。黙読と声に出して読むのでは全然違います。発音しにくいところや、だれのセリフかわかりにくいところなどを確認しながら、声に出してよく練習しましょう。10回以上は読みたいものです。読みなれてきたら今度は本を手を持って、見せ方も考えて練習しましょう。

### 4 学校でボランティア活動をする自覚

学校で読み聞かせをしているほとんどの方は、ボランティアとして行っていると思います。ボランティアの活動であっても、子どもたちも先生もその時間を楽しみにしていますので、責任と自覚はきちんと持ちたいものです。

担当の日時を守り、当日は遅刻しないように、余裕をもって出かけます。

学校の中での貴重な時間を使うのですから、しっかり準備をしていきましょう。決められた時間内に終わるか、季節や学年に合っているか、読む練習は十分か、など。準備不足は、子どもたちに迷惑がかかることを忘れないでください。

読み聞かせ後の反省も欠かせません。自分の考えを押し付けたり、自己満足になったりしないように、仲間同士で練習し合い、常に学習していく姿勢を忘れないようにしましょう。

学校で読み聞かせを行うことには、いくつかの大きな意味があります。毎日一緒にいるクラスの仲間や先生と同じおはなしを聞いて楽しむこともそう



です。また、普段本に接する機会の少ない子どもたちに本の世界を届けることもできます。

とはいっても、自分が全責任を背負ってしまうことはありません。あくまでも、学校における読書推進の一環としての役割です。その役割を自覚して、できることをきちんとこなしましょう。

様々な問題が起き、判断に迷ったときは、子どもたちにとってよりよい状況は何か、ということを第一に考えましょう。



## 5 相談できる関係をつくりましょう

学校で読み聞かせをするときに大切なことは、学校とボランティアとがよく話し合い、目的をはっきりさせておくことです。

読書推進についてどのように考えているのか、ということ話し合う機会がもてると、お互いに信頼感や安心感がうまれます。そのためには、学校とコミュニケーションをよくとり、ボランティアの考えも伝えましょう。無理な依頼があったときには、お断りすることもあるかもしれません。もちろんその前にボランティア同士でもよく話し合っておくことが必要です。

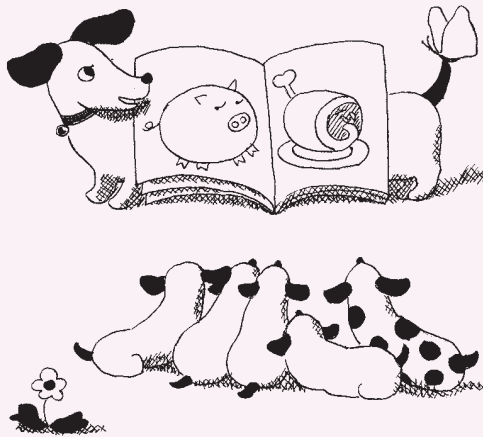
また、読み聞かせボランティアを行っていて理想的なのは、読んだ本をすぐに子どもたちが手にとれることです。学校で読み聞かせを行う場合であれば、学校の図書室の本で読み聞かせができる状態です。図書室に置きたい本を学校に伝えることができれば、子どもたちの読書環境の充実にもつながります。

ボランティア同士やボランティアと学校とが、こまめに連絡をとり合い、相談できる関係をつくっておくことが大切です。

## 6 読み手と子どもたちとの楽しい時間の共有を目指して

読み聞かせはすぐに結果が出るものではありません。地道に長い時間をかけ、子どもたちの感性や創造力が育つことを信じて活動していきましょう。

また、読み聞かせをするときに、子どもの授業に合わせて本を選ぶ場合もあるようですが、ボランティアの読み聞かせは、授業と関係ないからこそ楽しい、という声もあります。読み手も子どもたちも全員が、ゆったりと楽しく共有できる読み聞かせの時間をもてるように活動しましょう。



第1章でも触れたように、読み聞かせをする上で一番大切なのは、絵本を選ぶことです。でも、たくさんある絵本の中から、どうやって選んだらよいのでしょうか。それは、読み聞かせを始めたばかりの人だけでなく、長く活動している人たちにも共通の大きな問題です。

この章では、絵本を選ぶときに注意することを紹介します。

### 1 絵本を選ぶポイント

#### 絵がおはなしを語っている

絵本は、おはなしと絵がうまくとけあって一つの世界をつくり出すものです。絵本を手にとったら、まず絵だけを見てページをめくってみてください。おはなしの流れが読み取れますか？ 絵がおはなしを語り、おはなしのイメージを広げているのでしょうか。

#### 子どもたちの心をとらえるおはなし

特に低学年の子どもたちは、絵本の中の主人公に共感し、一体となっておはなしを楽しみます。主人公の行動やおはなしの展開が子どもの気持ちに合っていて、納得できるものになっていますか？ おはなしの結末が、肯定的で満足できることも大切な要素です。

#### 文章のわかりやすさ

耳で聞いてわかりやすく、イメージを描きやすい文章が読み聞かせには向いています。目で読むだけでは判断がつきにくいいため、必ず声に出して読んでみます。他の人に読んでもらって、聞いてみるのもよい方法です。



## 長く読みつがれてきた絵本を目安に

絵本を選ぶとき一つの目安になるのは、絵本が最初に出版されてから、どのくらいの年月、子どもたちに親しまれてきたかということです。本には、初めか最後に必ず、小さめの字で作者や出版社を記載した部分があり、これを「奥付<sup>おくづけ</sup>」と呼びます。この奥付に「初版発行」として書いてあるのが、その本が日本で最初に出版された年月日です。

例えば、「ぐりとぐら」と「だいくとおにろく」の初版は1967年で、月刊絵本としての出版はさらにさかのぼります。この2冊はすでに40年もの長い間読みつがれ、今も現役です。まず初めは、こういった息の長い絵本を読んでみてください。たくさん読むことによって、絵本を選ぶ目を養うこともできます。



ぐりとぐら



だいくとおにろく

## 図書館を利用しましょう

市立図書館にはたくさんの絵本があります。いろいろな絵本を手にとって見たいときには出かけてみましょう。図書館の本は司書が1冊1冊目を通し、選んだものなので安心して利用できます。

なお、市立図書館の絵本の棚は、基本的に画家名の五十音順に並んでいて、知識・科学の絵本と小型絵本は別の棚に分かれています。絵本を選ぶ際に参考になる児童書研究書もあり、別にコーナーをつくっている図書館もあります。

## 2 集団への読み聞かせに向く本

絵本を選ぶときに気をつけなくてはならないことはまだあります。それは、その絵本が集団への読み聞かせに向く本か、ということです。絵本はもともと、親子や兄弟姉妹など少人数で読むためにつくられています。

それでは、学校などで大勢の子どもたちに向けて読み聞かせをするのに向く絵本とはどんなものなのでしょうか。

### 絵がよく見えること

1クラス30~40人の子どもたちに見せるには、絵本自体ある程度の大きさが必要です。ただし、絵本の大きさが十分でも、絵の技法や色彩・構図などで、遠くからは見えにくいことがあります。逆に小さいと思われる絵本なのに、遠目がきく場合もあります。絵本を開いて置き、離れた所から見てみましょう。

### 絵と文章のバランス

一つの場面に対して文章が長すぎると、子どもが飽きてしまうことがあります。特に、読み聞かせを始めて問もない人は、絵と文章量のバランスが取れた絵本を選んだ方が安心です。

### 場面割り

本を開いた右と左のページを合わせて、「見開き<sup>みひら</sup>」と言います。この見開きに1場面だけが描かれているときには、子どもはどこを見ればいいかすぐにわかります。もし、右と左に1場面ずつ描かれていたり、3場面以上の絵がある場合は、必要に応じて、うるさくない程度に該当の場面を軽く指差すとわかりやすくなります。

### 子どもたちの年齢を考える

子どもたちの年齢にあった絵本を選ぶのはもちろんですが、集団の場合、おはなしについて来られない子どもがいることがあります。ページを戻って読み直すことはできませんから、一対一のときよりも少し易しい絵本を選ぶとよいでしょう。

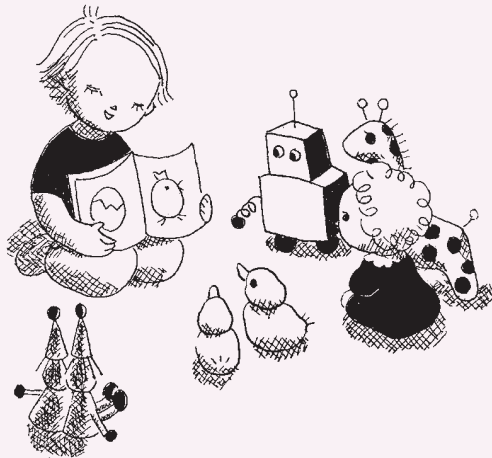
### 楽しみを分かちあうこと

生活の中の季節感が薄れてきているこの頃です。季節や行事、子どもたちの生活に合わせた絵本を選ぶと、子どもたちもより集中して聞くことができるようです。

また、読み聞かせをする人の想いは、読み聞かせを通じて自然に子どもたちに伝わります。読み手自身が好きな絵本を選び、子どもたちと一緒に楽しみたいという気持ちを大切にしましょう。

★ この冊子の巻末に、読み聞かせに向く絵本のリストがあります。

最初の絵本選びに迷ったとき、まず手にとってもらいたい本を掲載しましたので、参考にしてください。



## どのように読み聞かせをしていますか？

### 1 プログラム（何冊かの絵本を組み合わせる）

\*子どもたちが飽きずに楽しめるために

「朝1～2冊読むだけなのにプログラムなんて」と思われるかもしれませんが、授業時間内でのプログラムだけでなく、学年ごとにどんな本をいつ頃読むか、前後の週にどんな本を読むのか、他の人との兼ね合いはどうか、などを考えるのもプログラムです。

ここでは、本の組み合わせ方について簡単にふれます。いずれにしても、メインの本を決めてから組み合わせる本を選びましょう。

- しっかりした内容の本を選んだらもう1冊は気軽に楽しめる本を、また、時間的に長い本の前後は短い本を、といったぐあいに組み合わせます。似たような印象の本を続けるのはやめましょう。
- 昔話を2冊続けるよりは、1冊は創作物や知識・科学絵本などにすると、ふんい気も変わります。
- 内容が似すぎているおはなし、例えば“おおかみと七匹のこやぎ”と“三びきのこぶた”など、また逆に、笑い話とまじめなおはなしのように、質が違いすぎる本は組み合わせないようにしましょう。
- 子どもたちのそのときの様子に合ったものを読むように、1～2冊余分に用意しておくのが理想的です。



### 2 会場のつくり方

\*子どもたちに絵本がよく見えるように、声がよく聞こえるように

- 絵本の位置が、子どもの目線より少し上になるように、子どもが床に座るなら読み手は椅子に座り、子どもが椅子なら立ちます。また、絵本が逆光にならないようにします。
- つるつるした紙の絵本のときは、光が反射して見えにくいのか、事前に仲間に見てもらいましょう。
- 子どもたちには、読み手との間隔を人ひとり分くらいあけて、読み手を中心とした扇形(90~100度位)に並んでもらいます。
- 出入口は、子どもたちの後ろ側にくるように座ってもらいます。
- 子どもたちの気が散るような物を前に置かないようにします。
- 心配ならば、読み始める前に直接子どもたちに「見えますか?」と聞いてみてください。



★ いろいろな状況があるので、できる範囲で最良の状態で行うことが大切です。

### 3 本を読む前は（導入の仕方）

\* 子どもたちが絵本の世界に入っていけるように

- 読み聞かせの場所に入ったら、子どもたちの様子を眺めた後、朝のあいさつなどを簡単に行い、すぐに読み始めます。
- わかりにくい言葉や昔の物の名前などがある場合は、事前に少し説明を

入れるときもありますが、絵が説明してくれているときは特に必要はありません。

- なんとなくざわついているときなどは、手遊びやわらべうたを入れるのもよいでしょう。

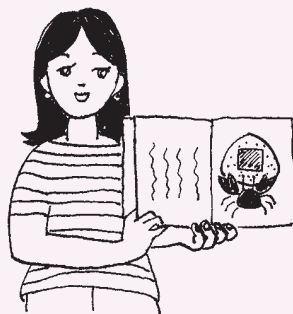
- ★ 用意していった本を「知っている。読んだ」と言われても大丈夫。「じゃあ、今日はみんなと一緒に聞いてね」と言って読み始めれば、皆きちんと聞いてくれますよ。

## 4 本の持ち方、めくり方

\*全体がよく見えるように

### 持ち方のポイント

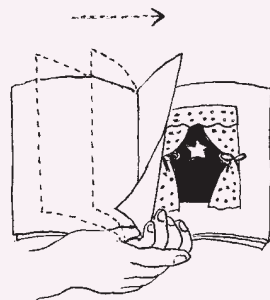
- ひじを直角に曲げ固定し、開いた本の中央の下を片手でしっかりと持ちます。
- 基本的に、一度本の位置を決めたら読み終わるまでは動かしません。
- 親指を裏側にし、残りの四本の指を表側にして、本がぐらぐら動かないようにします。ただし、表の指で絵を隠さないようにしましょう。
- 本は左右の傾きがないように持ち、子どもたちが見やすいようにやや下向きにします。
- ページをめくるときに自分の側から向こう側へいくように、右開きの本は左手で持ち、左開きの本は右手で持ちます。



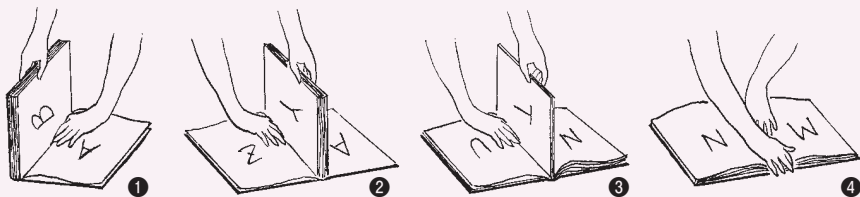
### めくり方のポイント

- 本を持っていない方の手は、次のページをめくる用意をしてから本の下端を支えておくとスムーズにいきます。

- めくった後はひと呼吸おいて、絵をよく見せてから読み始めます。
- めくり方はとても大切です。おはなしの流れに合わせてめくれるように練習しましょう。
- 慣れないうちは仲間にチェックしてもらえると安心です。



- ★新しい本は、読み聞かせをする前に開きぐせ（机の上に本を置き、表紙から数ページごとにとじを押さえる）をつけておくと、扱いやすいだけでなく、本も傷みにくくなります。
- ★本のカバーが邪魔になるようなら、読むときははずしましょう。



## 5 表紙の見せ方

\*本と子どもとをつなげるために

- 表紙をよく見せて、絵本の題名をしっかりと読んでから始めます。
  - 見返しも絵本の一部ですから、きちんと見せます。表紙からおはなしが続いている場合もありますし、無地の場合は、おはなしが始まる前に心をまっさらにする時間です。
  - 表題紙の題名も読みましょう。
- ★ 作者・画家・訳者は読む場合と読まない場合があります。子どもの年齢や場所によっても違うので、どうするかは仲間と相談しておきましょう。

## 6 文のないページの扱い方

\*本をつくった人たちの想いを伝えるために

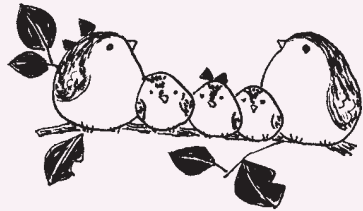
- 黙ってゆっくり絵を見せてください。
- 家庭で読むのとは違うので、効果音や説明は必要ありません。読み手が勝手に言葉を付け加えたりすることは慎みましょう。
- 指で絵を示したり、子どもたちの声を拾ってあいづちをうったりするのもよいでしょう。

★ 読む本や、子どもの年齢、読み手と子どもとの関わり方によっても扱い方が違ってきます。読み聞かせを始めたばかりの頃には、文のないページがある本は選ばない方がよいかもしれません。

## 7 声の大きさ、読み方

\*おはなしの内容を伝えるために

- 一番うしろの子どもまで声が届くように、はっきりと読みます。
- 語尾を大切に、文末までしっかりと発音します。
- 大げさな声色や顔つき、大声は必要ありません。登場人物の違いがわかる程度に、ごく自然に読みます。子どもが、読み手に気をとられずにおはなしを楽しめるようにしましょう。
- 声のリズムが一定だとおはなしも単調になってしまいます。おはなしの流れにそって、メリハリをつけて読みましょう。特に場面が変わる所では、声の調子を変えたりするとわかりやすいでしょう。
- 歌が出てくる絵本もありますが、無理に歌う必要はありません。リズムカルに読めば十分です。
- 読みながら子どもたちの顔を見る必要





はありませんが、ときには子どもたちの同意を得る意味で顔を見るのもよいでしょう。

- ★ 読み聞かせの途中で質問してくる子がいる場合、顔を見てうなずき、そのまま続けます。そして、本を読み終えてからその子の質問に答えてあげましょう。

## 8 終わり方

### \* おはなしの世界の余韻を残して

- 読み終わったら、ひと呼吸おいてから裏表紙を見せて「おしまい」と言います。
- もう一度表紙に戻って題名を「…でした」と読むのもよいでしょう。
- 表紙と裏表紙の絵がつながっている場合は、開いて見せます。
- 子どもたちが感想を言ってきたら聞くのはよいのですが、感想を求めたり、「わかった?」と聞いたりする必要はありません。
- ゆっくりと余韻を残して終わりましょう。
- 必要に応じて、この本がどこで借りられるかを説明するのもよいでしょう。

### ◆ 著作権について知っていますか? ◆

読み聞かせを続けていると、絵本や紙芝居を拡大コピーして使ったり、ペープサートや人形劇、パネルシアターを作ったりすることもあるでしょう。でも、ちょっと待って! 絵本の絵や文章を変形して使用するときは出版元へ連絡し、著作権者の許可を得る必要があります。

詳しいことは、日本書籍出版協会までお問い合わせください。

TEL 03(3268)1303 <http://www.jbpa.or.jp>

横浜市では、すでにたくさんの学校でボランティアによる読み聞かせが行われています。中には個人で活動している方もいますが、多くはグループで活動しています。ここではグループで活動している方々取材し、読み聞かせの実際の様子や運営の仕方についてまとめました。

### ① 学校での読み聞かせ

Q いつどこで読み聞かせをしていますか？

A 朝、授業が始まる前の10～15分間、各クラスで1～2冊の本を読むという形式と、休み時間に図書室や視聴覚室で絵本の読み聞かせや紙芝居などを行うという形式が多いようです。学校によっては、授業の時間に、読み聞かせ・ストーリーテリング・人形劇・パネルシアターなどを行っています。

Q 読み聞かせは低学年だけのものですか？

A 全学年全クラスに読み聞かせを行っている学校もあります。高学年には、高学年に向くような絵本を選んだり、朗読を取り入れたりするなどの工夫をしています。ある学校では、初めのうちは低学年のみに読み聞かせを行っていましたが、その学年が高学年になってもそのまま継続することで、読み聞かせが全学年に広がりました。



教室での読み聞かせの様子



❶ 学校との関わり方は？

❶ すでに活動している人は「学校との連携が不可欠」と感じています。メンバーが集まったら、まず学校の担当者（司書教諭または図書担当教諭）とボランティアとで顔合わせを行います。そのときに

- 何のために読み聞かせをするのか、活動主旨
- どのように行うか、具体的な方法
- 名札の着用など、学校に入る際のきまり
- 活動の中で知り得た子どもや学校の情報を、むやみに

口外しないなど、プライバシーに関する注意などを確認します。

学校の担当者やグループの代表が代わったり、新しいメンバーが加入したりしたときにもこれらのことが伝わるように、活動のきまりを文章として作成している学校もあります。

❷ 日程や担当はどうやって決めていますか？

❶ 読み聞かせの日程は学校の担当者と相談して設定し、1ヶ月～半年ごとに予定を組むのが一般的です。予定が決まったら、ボランティア内で読み聞かせ担当を決めます。

❸ 読む本はどうやって決めていますか？

❶ ボランティアが選ぶ場合が多く、そのよりどころとして、勉強会を開いたり、読み聞かせの講座に参加したりしています。

また、読んだ本の記録を残して情報交換なども行っています。

グループとして選書会を開く、先生と相談して、授業で習った著者の作品などを読むことでより興味をもってもらう、といった工夫もなされています。



Q 読む本はどこで調達していますか？

A 学校の図書室を利用する、自宅にある本を持ってくる、メンバーの中で貸し借りをするなどほかに、市立図書館や地区センター、コミュニティハウスなどで借りてきています。

◆ 市立図書館の便利なシステムをご紹介します ◆

**[横浜市立図書館グループ貸出制度]**

横浜市立図書館では、登録制により最大30冊、最長1ヶ月まで借りることができます。登録は、5名以上の会員で、横浜市内で読書普及活動をしている団体です。

詳細は、横浜市立図書館にお問い合わせください。

**[図書館の検索システム]**

自宅のパソコンを使って蔵書の検索ができます。

(横浜市立図書館 蔵書検索 <https://opac.lib.city.yokohama.lg.jp/opac/> )

Q 記録はどのようにつけていますか？

A 次のような項目で、実際に読んだ後の記録を取ります。

- 日付、曜日、学年、組、担当者
- 本の題名、作者、画家、出版社
- 読み聞かせをしたときの子どもたちの様子や反応

記録ノートをつくるか、だれでも記入できるような記録用紙を印刷してファイリングするとよいようです。

読み聞かせの記録は、お互いの選書の参考になりますし、次年度の活動計画作成の資料としても有効です。学校に定期的に提出することで、ボランティアがどのような本を読んでいるのか、子どもたちの反応はどうかを伝えることができます。

また、記録を図書室の本の購入の参考にしたり、読み聞かせリストをつくって図書室に貼り出し、子どもたちが再度手にとって見るような環境づくりに役立てたりしているグループもあります。さらに、読み聞かせから図書室整備に活動の内容を広げたグループもありました。

- Q 学校やPTA会費からの補助金をどのように使っていますか？
- A 学校やPTA会費から補助金の出ている学校では、読み聞かせ会の様子をお知らせする通信を発行したり、メンバーの目印として、おそろいのエプロンやバンダナを用意したりするグループもあります。
- 共通の目印があると「子どもたちが覚えて、笑顔で声をかけてくれるようになった」という声がありました。

- Q グループの運営はどうしていますか？
- A 多くのグループでは、読み聞かせの直後にその日の反省会を行い、実際に読んでみて良かった点・反省点について感想を述べあったり、アドバイスをしあったりしています。また、定期的集まりをもって、選書について勉強をしたり、実際に絵本を読みあったりして技術や意識の向上を図っています。

定期的な集まりは、メンバー全員の参加が理想ですが、参加できなかったメンバーにも話し合った内容が伝わるように、記録を残して情報交換をしているところもあります。

休み時間の集まりに担当の先生も参加して、先生方からの感想や読み聞かせ後の子どもたちの様子をうかがうなどして、コミュニケーションを図っている学校もありました。

### \* 発展型の例 \*

<保護者や地域への情報発信について>

子どもたちの家庭の状況は様々ですが、多くの家庭で読み聞かせや絵本、読書について関心をもってもらえるよう、子どもたちや保護者に向けての通信を発行している学校もあります。



## ② 読み聞かせの仲間たちとネットワークをつくろう！

読み聞かせボランティアの活動を始めてみると、身近に相談できる人や必要な情報がなくて困ることもあるでしょう。そんなときは、同じ学校で活動している仲間とグループをつくったり、他校のボランティアと情報交換をしたり、図書館や地区センターの読み聞かせの勉強会や交流会に参加したりして、ネットワークをつくってみてはいかがでしょうか。地域で活動している読み聞かせボランティアの情報は、市立図書館や横浜市社会教育コーナーなどから入手できます。（平成19年4月以降にお問い合わせください）

読み聞かせボランティアのネットワークの規模は様々ですが、現在市内には、区単位や近隣の区の仲間が集まって形成されるものがあります。その中から、金沢おはなしネットワーク「ウェズランディア」、泉区・戸塚区の「おはなしねっと」を紹介します。

名 称	ウェズランディア	おはなしねっと
活動地域	金沢区	泉区・戸塚区
開催場所	地区センター	泉図書館
開催頻度	毎月1回	年1～2回
参加単位	個人（35～38名）	学校（10校）
メンバー	読み聞かせボランティア	読み聞かせボランティア
内 容	おすすめ本紹介 ブックリスト作成 ミニおはなし会 小物の製作・貸出 講座 Q&A 講座・勉強会の情報交換	読み聞かせリスト交換 おはなし会実演 各校での活動報告 講座（予定） Q&A 講座・勉強会の情報交換

（この情報は平成18年7月現在のものです）

ネットワークは情報交換の場であり、創意工夫や研鑽、ボランティア意識の向上を目指すという共通認識を通して、より質の高いおはなし会を提供できるようになるという利点があります。

### 3 活動を円滑に進めていくために

#### 共通認識をもつ

ボランティア活動でしばしば問題になるのは、メンバーの中で読み聞かせに対する意識の違いが生じることです。スキルアップを目指す人、子どもがお世話になっている間だけのお手伝いという人など、ボランティア活動には様々な考え方があります。このためあるグループでは、メンバーの間で「無理しない」「強制しない」「できる範囲でやる」という活動の原点を常に確認しあっています。そして「わたしたちは子どもたちが本に親しむためのお手伝いをしているのだ」ということを全員が共通認識としているそうです。この考えを共有するようになってから、多少の意識の違いは気にならなくなったと聞きます。

#### 本の世界の魅力を届ける

読み聞かせは、聞き手である子どもたちひとりひとりが主役。その心の奥に本の世界の魅力を届けることができるかどうかは鍵ということなのでしょう。そこさえ見失わなければ、読み聞かせのテクニックもさることながら「ハートで子どもはついてくる」という意見も聞かれました。

読み手に「本がこんなに面白いものだということを、子どもたちに知って欲しい。伝えたい」という気持ちががしっかりあれば、それは必ず子どもにも伝わっていくと、あるボランティアの方は話されました。

#### 学校と地域との架け橋

学校に定期的に顔を出すことによって、読み聞かせボランティアが地域と学校をつなぐ架け橋になっている側面も大切にしたいところです。子どもたちに親しまれる存在となることで、地域の防犯活動に一役買うといった面も見られますし、本を紹介することによって、地元の図書館やコミュニティハウス、地区センターの図書コーナーの利用頻度が高まる傾向も出てきています。



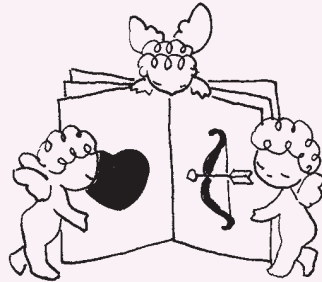
## 考えていた以上の成果

活動を始めてみてよかったと思うことをお聞きしたところ、

- 子どもたちが、時々予期せぬ反応や表情を見せてくれることに、読み手の自分が逆に驚かされることもあった。子どもたちからの反応が大きければ大きいほど、自身の充実感や達成感も大きい。
- 自分が選んだ本の世界に子どもたちが引き込まれ、子どもと一体になっていく感じが何物にも代えがたかった。
- 自分の子だけでなく、多くの子どもたちに読書の機会を与えられた。
- 大人になっても人に本を読んでもらう心地よさを味わえた。

など、多くの人が活動によって考えていた以上のものを子どもたちから与えられた実感をもっていることがわかりました。

先生からも、読み聞かせが行われたことで「一年ごとに聞き上手になっている」「自己表現力がついた」「自分からいろいろなジャンルの本に手が伸びるようになった」と、子どもたちの変化の兆しを感じる声が上がっています。



## ひとつでも多くの学校に

学校で読み聞かせを始めるときは、不安もあるでしょう。そんなとき、活動に理解を示してくださる先生は心強い存在です。先生方とのコミュニケーションを図り、相談できる関係をつくるのが大切です。中には、メンバーがPTAの本部役員に加わっていくことで、学校全体で活動を盛り上げていった例もあります。

定期的に読み聞かせが行われるようになってから、子どもたちが着実に変わってきているという現実の声に接するとき、ひとつでも多くの学校で読み聞かせ活動が定着していくことを願わずにはいられません。

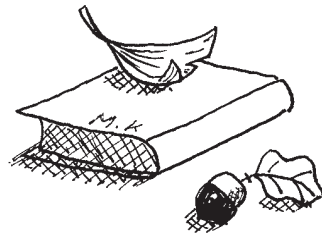
## 協力していただいた皆さん(敬称略)

### 横浜市立

あざみ野第二小学校 教育ボランティアグループどんぐりこ・ブックママ  
飯島小学校 おはなし会  
恩田小学校 おはなしひろば・図書館フレンド  
瀬ヶ崎小学校 おはなしのふうせん  
善部小学校 おはなしレンジャー  
文庫小学校 おはなしぶんちゃっちゃ  
緑園西小学校 緑園西おはなし会  
東汲沢小学校

泉区・戸塚区ネットワーク おはなしねっと  
金沢おはなしネットワーク ウェズランディア

おはなし広場 伊藤紀久子  
本ともだち 五十嵐裕子  
カルガモ文庫 馬渡 桂子  
カルガモ文庫 村上 玲子  
みどりのたね 堀井優加子



浅間コミュニティハウス

## 参考図書・文献

- 「読み聞かせわくわくハンドブック ー家庭から学校までー」  
代田 知子／著 ー声社
- 「えほんのせかい こどものせかい」  
松岡 享子／著 日本エディタースクール出版部
- 「おはなし会ガイドブック ー小学生向きのプログラムを中心にー」  
茨木 啓子 平田 美恵子 湯沢 朱実／編著 こぐま社
- 「わたしのブック・トーク ー子どもの本の読書案内ー」  
山花 郁子／著 岩崎書店
- 「小学生への読みがたり・読み聞かせ ー低学年編ー」  
この本だいすきの会／企画・編集 高文研

## あ と が き

5月10日に横浜市民アクトの呼びかけに応じて集まった30人の実行委員。「これから何が始まるの?」といった不安な顔・顔。でも話し合いが始まったところは目的を同じにする人の集まり、プロジェクト1・2・3はそれぞれのミッション目指して動き出しました。ちなみに、プロジェクト1は冊子班、プロジェクト2はデータベース班、プロジェクト3は交流・研修班です。

夏、汗を流しながら市内の学校等に読み聞かせボランティア活動の様子を取材に行ったり、リストに載せる本や読み聞かせの参考書を読みあったり……忙しい半年でした。

でも、メンバーは冊子をつくることをきっかけに、出会い、交流し、互いに高めあうことができました。今後はそれぞれの地域で読書関係のボランティア活動が活発化し、子どもたちの読書活動がますます発展していくことを願っています。

NPO 法人横浜市民アクト 福島 伸枝

「読み聞かせに向く絵本リスト」については、購入できない本などを差し替え、改訂を行いました。(横浜市中央図書館サービス課)

子どもが本に親しむためのプロジェクト大作戦

### 本の世界をひろげよう

～読み聞かせボランティアハンドブック～

平成18(2006)年11月25日発行

平成23(2011)年1月31日改訂

編集 ● 子どもが本に親しむためのプロジェクト大作戦実行委員会・冊子班  
発行 ● NPO法人横浜市民アクト(横浜市社会教育コーナー)  
● 横浜市教育委員会  
(指導企画課・生涯学習文化財課・中央図書館)

問合せ先 横浜市中央図書館サービス課  
〒220-0032 横浜市西区老松町1  
TEL 045-262-0050 FAX 045-231-8299

# 高学年向き 絵本



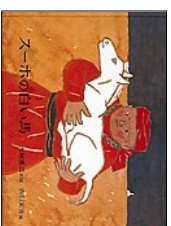
書名	対象学年			時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中	高					
いつもちこくのおとこの ジョン・パトリック・ラーマン・スクヘネシー				7	ジョン・バーニンカム	ジョン・バーニンカム	たにわらじゆんたろう	あかね書房
ウエスレーの国				10	ポール・フライシュマン	ケビン・ホークス	千葉茂樹	あすなろ書房
がいこつさん				10	五味太郎	五味太郎		文化出版局
3びきのかわいいオカミ				9	ユージーン・トリピサス	ヘレン・オクセンバリー	こだまともこ	富山房
しまぶくろうのみずうみ				5	手島圭三郎	手島圭三郎		リブリオ出版
シロナカスクジラより大きいものっているの？				10	ロバート・E. ウェルズ	ロバート・E. ウェルズ	せなあいこ	評論社
光の旅かげの旅				6	アン・ジョナス	アン・ジョナス	内海まお	評論社
漂流物				5	デイヴィッド・ウインズナー	デイヴィッド・ウインズナー		B L 出版
ぶたのたね				7	佐々木マキ	佐々木マキ		絵本館
フレデリック				6	レオ・レオニ	レオ・レオニ	谷川俊太郎	好学校
まんじゅうこわい				8	川端誠	川端誠		クレヨンハウス
むこうがわのあのこ				8	ジャクリン・ウットソン	E. B. ルイス	さくまゆみこ	光村教育図書
メアリー・スミス				6	アントニア・ユレン	アントニア・ユレン	千葉茂樹	光村教育図書
ロバのシルベスターとまほうの小石				14	ウイリアム・スタイング	ウイリアム・スタイング	せたていじ	評論社
クワンガリの平和の木				8	ジャネット・ウインター	ジャネット・ウインター	福本友美子	B L 出版

# 科学、詩・ことは遊び 絵本



書名	対象学年		時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中高					
あさがお			7	柳宗民 指導	斎藤光一		フレーベル館
こいぬがうまれるよ			7	ジヨアンナ・コール	ジェローム・ウエクスラー 写真	つばい、いくみ	福音館書店
しずくのぼうげん			7	マリア・テルリコフスカ	ボフダン・フテソコ	うちだりさこ	福音館書店
どこにいるの？シヤクトリムシ			8	新開孝	新開孝 写真		ポプラ社
はなのあなのはなし			10	やぎゆうげんいちろう	やぎゆうげんいちろう		福音館書店
ふゆめがつしょうだん			3	長新太	富成忠夫、茂木透 写真		福音館書店
ぼく、だんごむし			7	得田之久	たかはしきよし		福音館書店
みえないいつてどんなこと？			11	星川ひろ子	星川ひろ子 写真		岩崎書店
やさしいはいきている			6	藤田智 監修	岩間史明 写真		ひさかたチャイルド
わたし			4	谷川俊太郎	長新太		福音館書店
ウラバシ・オコサ			5	谷川晃一	谷川晃一		童心社
かえるがみえる			4	松回享子	馬場のぼる		こぐま社
かさぶたつてどんなぶた			15	小池昌代 編	ヌエキコージ		あかね書房
これはのびのびこ			6	谷川俊太郎	和田誠		サンロード
ぶたたぬきつねねこ			3	馬場のぼる	馬場のぼる		こぐま社

# 昔話 絵本



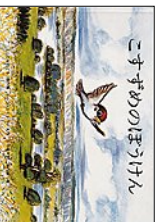
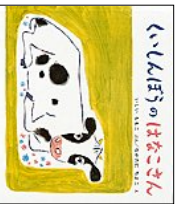
書名	対象学年			時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中	高					
いつさんぼうし				11	いしいももこ	あきのふく		福音館書店
王さまと九人のきょうだい				14	(中国の民話)	赤羽未吉	君島久子	岩波書店
おおかみと七ひきのこやぎ				10	グリム 原作	フェリクス・ホフマン	せたていじ	福音館書店
かさじぞう				6	瀬田貞二 再話	赤羽未吉		福音館書店
かにむかし				14	木下順二	清水崑		岩波書店
ガラ又めだまときんのつものヤギ				8	(ペラルーシ民話)	スズキコージ	田中かな子	福音館書店
三ひきのこぶた				7	(イギリスの昔話)	山田三郎	瀬田貞二	福音館書店
三ひきのやぎのからからどん				5	(ノルウェーの昔話)	スーシャ・ブラウン	せたていじ	福音館書店
十二支のはじまり				7	岩崎京子	二俣英五郎		教育画劇
スーホの白い馬				14	大塚勇三 再話	赤羽未吉		福音館書店
だいぐとおにろく				6	松居直 再話	赤羽未吉		福音館書店
太陽へとぶ矢				7	ジェラルド・スクダーモット	ジェラルド・スクダーモット	じんぐうてるお	ほるぷ出版
てぶくろ				5	(ウクライナ民話)	エウゲニー・M. ラチヨフ	うちだりさこ	福音館書店
とらとほしがき				10	バク・ジェヒョン 再話	バク・ジェヒョン	おおたけきよみ	光村教育図書
はなさかじい				9	松谷みよ子	西村繁男		童心社



書名	対象学年		時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中高					
ふしぎなナイフ			3	中村牧江・林健造	福田隆義		福音館書店
べしのあたらしいはく			5	エルサ・ベスコフ	エルサ・ベスコフ	おのであゆりこ	福音館書店
へんなどうつば			14	ウンダ・ガアグ	ウンダ・ガアグ	わたなへしげお	瑞雲舎
はくのだいすきなクニアの村			10	ケリー・クネイン	アナ・フアン	小島希里	B L 出版
まあちゃんのながいかみ			6	たかどのほうこ	たかどのほうこ		福音館書店
めつきらもつきらどおんどん			7	長谷川摂子	ふりやなな		福音館書店
もこもこもこ			3	たにかわしゆんたろう	もとながさだまさ		文研出版
ものぐさトミー			14	ベーン・デュボア	ベーン・デュボア	松岡享子	岩波書店
もりのなか			7	ラリー・ホール・エッツ	ラリー・ホール・エッツ	まさきるりこ	福音館書店
やかましい!			8	アン・スクカバン	シムス・タバック	木板涼	フレール館
やさしいおなか			3	きうちかつ	きうちかつ		福音館書店
よあけ			3	ユリー・シュルザイツ	ユリー・シュルザイツ	瀬田貞二	福音館書店
よかつたねネットくん			4	レミー・チャーリッツ	レミー・チャーリッツ	八木田直子	偕成社
ラチとらいおん			9	スレーク・ペロニカ	スレーク・ペロニカ	とくながやすもと	福音館書店
ろくへえまってるよ			8	灰谷健次郎	長新太		文研出版
わこまはどのくらしいのびるかしら?			3	マイク・サーラー	ジェルー・ジョイナー	岸田裕子	ほるぶ出版

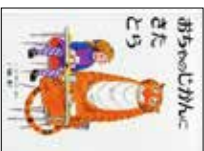
書名	対象学年		時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中高					
ゼラルダと人喰い鬼			10	トミー・ウンゲラー	トミー・ウンゲラー	たむらひゆういち あそうくみ	評論社
せんたくかあちゃん			7	さとうわきこ	さとうわきこ		福音館書店
ターちゃんどペリカン			8	ドン・フリーマン	ドン・フリーマン	さいおんじさちこ	ほるぷ出版
ちいさいおうち			15	ばーじにあ・リー・ばーとん	ばーじにあ・リー・ばーとん	いししいももこ	岩波書店
チムとゆうかんなせんちようさん			14	エドワード・アーデイズーニ	エドワード・アーデイズーニ	せたていじ	福音館書店
どうながのフレッツェル			7	マーグレット・レイ	H. A. レイ	わたなべしげお	福音館書店
どペリッタ			5	田島征三	田島征三		偕成社
どろんごハリー			6	ジーン・ジオン	マーガレット・フロイ・クレナム	渡辺茂男	福音館書店
なにをたべたかわかる？			4	長新太	長新太		絵本館
ねえ、どれがいい？			6	ジョン・バーニンガム	ジョン・バーニンガム	まつかわまゆみ	評論社
ねぎぼうずのあさたらう その1			6	飯野和好	飯野和好		福音館書店
ねぼすけはとどけい			30	ルイス・スロボドキン	ルイス・スロボドキン	くりやがわけいこ	偕成社
はちうえはぼくにまかせて			8	ジーン・ジオン	マーガレット・フロイ・クレナム	もりひさし	ペンギン社
はなのすきなうし			10	マンロー・ルーフ	ロバート・ローソン	光吉豊弥	岩波書店
はらぺこあおむし			4	エリック・カール	エリック・カール	もりひさし	偕成社
ハンダのびつくりプレゼント			4	アイリーン・アラウン	アイリーン・アラウン	福本友美子	光村教育図書
ピーターのいす			5	エズラ・ジャック・キーツ	エズラ・ジャック・キーツ	木島始	偕成社
びくびくピルー			5	アンソニー・トラウン	アンソニー・トラウン	灰島かいり	評論社
100まんびきのねこ			10	ロンダ・ガアザ	ロンダ・ガアザ	いししいももこ	福音館書店
ふしぎなたけのこ			11	松野正子	瀬川康男		福音館書店





書名	対象学年			時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中	高					
木はいいなあ				5	ジヤニヌ＝メイ＝ユー＝ドリイ	マーク＝シュー＝モント	西園寺祥子	偕成社
きょうはなんのひ？				9	瀬田貞二	林明子		福音館書店
くいしんぼうのはなごさん				10	石井桃子	中谷千代子		福音館書店
くまのコーレンくん				8	ドン・フリースン	ドン・フリースン	まつおかきょうこ	偕成社
ぐりとぐら				6	中川李枝子	大村百合子		福音館書店
くろねこかあさん				3	栗君平	栗君平		福音館書店
くんちやんのだいりょこ				9	ドロシー・スリノ	ドロシー・スリノ	石井桃子	岩波書店
ごきげんならいおん				12	ルイーヌ・フアテイオ	ロジャー・デュボアザン	むらおかはなこ	福音館書店
こすずめのぼうけん				8	ルース・エイソワース	堀内誠一	石井桃子	福音館書店
サリーのこけもつみ				14	ロバート・スワックロスキー	ロバート・スワックロスキー	石井桃子	岩波書店
ジオジオのかんむり				5	岸田杢子	中谷千代子		福音館書店
じごくのそうへえ				11	田島征彦	田島征彦		童心社
11ひきのねことあほうどり				6	馬場のぼる	馬場のぼる		こぐま社
しんせつなともだち				5	方敬羣	村山和義	君島久子	福音館書店
すてきな三にんぐみ				6	トミー＝アソゲラー	トミー＝アソゲラー	いまいよしと	偕成社

# ちのがたり 絵本



書名	対象学年			時間のめやす	作家	画家	訳者	出版社
	低	中	高					
あたしもびょうきになりたいな！				6	フランツ＝トロンテンベルク	アリキ＝トロンテンベルク	ふくもとゆみこ	偕成社
あれこれたまご				7	とりやまみゆき	中の滋		福音館書店
1ねんに365のたんじょう日プレゼントをもらったペンジヤミンのおはなし				8	ジュディ＝バレット	ロン＝バレット	まつおかきょうこ	偕成社
いろいろへんないろのはじまり				9	アーナルド・ローベル	アーナルド・ローベル	またたまつこ	雷山房
うちにあかちゃんがかうまれるの				8	いとうえみこ			ポプラ社
オー・スツバ				4	越野民雄	高畠純		講談社
おおきなきがほしい				14	さとうさとる	むらかみつとむ		偕成社
おさるとほうしうり				9	エズノイール・スロボトキーナ	エズノイール・スロボトキーナ	まつおかきょうこ	福音館書店
おじさんのかさ				7	佐野洋子	佐野洋子		講談社
おちやのじかんにきたとら				7	ジュディヌス・カー	ジュディヌス・カー	晴海耕平	童話館
おまたせクッキー				5	バット＝ハツチンス	バット＝ハツチンス	乾侑美子	偕成社
かいじゅうたちのおいるところ				6	モーリス・センダック	モーリス・センダック	神宮輝夫	雷山房
かさどろぼう				10	シビル・ウエッタシンハ	シビル・ウエッタシンハ	猪熊葉子	徳間書店
がちようのペチユーニア				13	ロジャー・デュボラサン	ロジャー・デュボラサン	松岡享子	雷山房
きつねのハイテイ				13	シビル・ウエッタシンハ	シビル・ウエッタシンハ	松岡享子	福音館書店

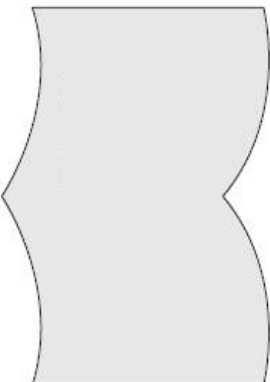
## 読み聞かせに向く絵本のリスト

小学校で読み聞かせをするのに向く絵本のリストです。

大きく **ものがたり**、**昔話**、**科学**、**詩**、**ことば遊び** に分けて、なるべく幅広い学年に読める絵本を選びました。おおよその対象と読み聞かせにかかる時間を記載してありますが、読み手や聞き手によって変わってきますので、あくまでめやすにしてください。

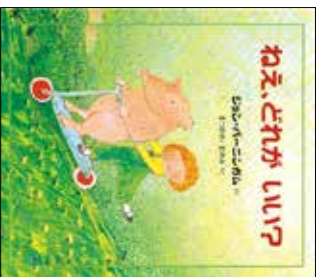
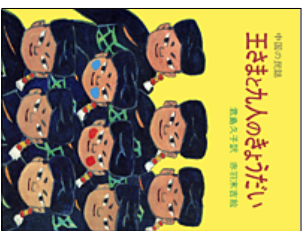
さらに高学年向けの絵本選びに困っている方が多いことを考えて、主に高学年の子どもたちを対象に読める **高学年向き絵本** のリストをつけました。

このリストを手始めに、いろいろな絵本を子どもたちに紹介してあげてください。

- 
- ものがたり
  - 昔話
  - 科学 詩・ことば遊び
  - 高学年向き

### \*\*\*もっと知りたい人へ・参考図書\*\*\*

「私たちの選んだ子どもの本」	東京子ども図書館 / 編・発行	
「おはなし会カイドブツク」	茨木 啓子・平田 美恵子 / 著	こぐま社
「えほんのせかい こどものせかい」	松岡 享子 / 著	日本エディタースクール出版部
「絵本のよるこび」	松居 直 / 著	日本放送出版協会
「本・子ども・絵本」	中川 李枝子 / 著	大和書房
「心に緑の種をまく」	渡辺 茂男 / 著	新潮社
「幼い子の文学」	瀬田 貞二 / 著	中央公論社



# 読み聞かせに向く 絵本リスト

